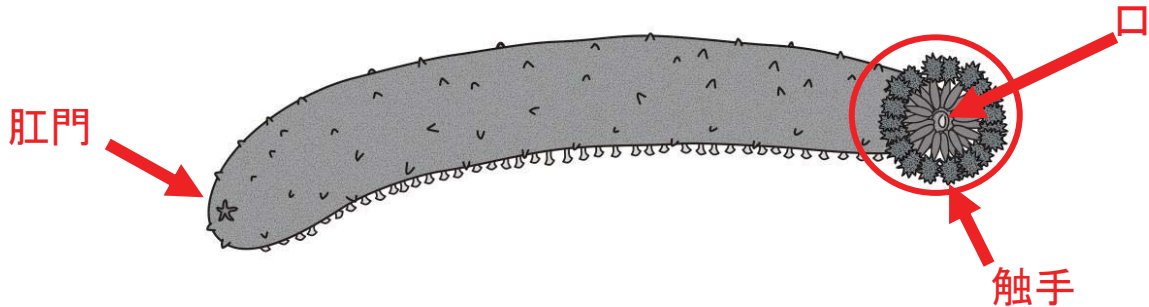


# 沖縄美ら海水族館 海のふしぎ 発見シート

## 中級編 解説

### 問1. 正解 (イラスト参照)



「イノーの生き物たち」水槽のニセクロナマコをよく観察すると、体の片側に触手しよくしゆと呼ばれる器官がついているのが分かります。この触手のある方が口です。ナマコは口の周りにある何本もの触手を使って砂を口に運び入れ、砂粒についている有機物などを食べます。消化されない砂はフンとして、口の反対側にあるおしりの穴（肛門）から排出されます。

### 問2. 正解 B (動物)

「サンゴの海」水槽に展示されている色々な形をしたサンゴ。動かないサンゴはまるで植物のように見えますが、イソギンチャクやクラゲの仲間に近い動物です（初級編 解説 問2参照）。

### 問3. 正解 クマノミの仲間

イソギンチャクの触手には刺胞しほうと呼ばれる毒針があり、多くの魚はこれに触れると刺されてしまいます。クマノミの場合、特殊な粘液が体を覆っているため、イソギンチャクの毒針に刺されることはありません。クマノミの仲間は、イソギンチャクのそばでくらすことで、クマノミを襲う大型の魚から身を守っています。

**問4. 正解 A (チンアナゴ)**

**正解 D (ニシキアナゴ)**

チンアナゴの仲間は潮通しのよい砂底に生息しています。砂の中から上半身を出し、潮の流れに顔を向けて流れてくる小動物を食べます。日本に生息するチンアナゴの仲間5種のうち、「サンゴ礁への旅 個水槽」に展示されているのは「チンアナゴ」と「ニシキアナゴ」。チンアナゴは白地に黒色の“てんてん”模様、ニシキアナゴは白と黄色の“しましま”模様です。

**問5. 正解 C (コバンザメ)**

「黒潮の海」水槽には、大きな魚にピタッとくっつくのが得意な魚「コバンザメ」がいます。サメという名前がついていますが、サメの仲間ではなく、硬骨魚こうこつぎょの仲間です（サメ博士の部屋編 解説 問2参照）。頭の上に背ビレが変化してできた吸盤きゅうばんがあり、大きな魚やウミガメにくっついて生活しています。大型生物にくっつくことで、敵から身を守るだけでなく、移動や摂餌せつじなどに関して利益を得ています。

※ジシャクザメ、キュウバンザメという名前の魚はいません。

**問6. 正解 B (ダイオウイカ)**

**正解 A (マッコウクジラ)**

「深海への旅」エリアの手前には、大きなイカの標本が設置されています。深海に生息するこのイカの名前は「ダイオウイカ」です。標本は1994年に沖縄県で捕獲されたもので、腕を含めた全長は6m37cm。大きなものでは全長20mにもなると言われており、1匹の大きさとしては無脊椎動物の中で最大の生物です。この大きなイカを食べるのが、全長15mにもなる「マッコウクジラ」です。

※「ジンベエザメ」・「ナンヨウマンタ」：体は大きいですが、小さなプランクトンや小魚など小動物を食べています。